

日本文化原論 永続思想 真なる調和への道

七色の虹の架け橋 全四巻（著者 横山 俊一）

『一卷 主体性学』 A5 サイズ 412 ページ 239.158 文字ほど
本体価格 1,780 円（税抜き）

1. 要旨

1)はじめに

私の世代と、だいぶ違った感覚の現象が見られる。「性教育」や「人権」等という面に顕著であり、一々、学校教育によって頭からの指導を行う事なのか？というのが直接的な感想であり友人関係等の交流で自然に適切さを吸収する体験を得るのが普通と映る。しかしながら、経済社会状況も「IT 化」等という技術変革から急激に変容し、「人材派遣制度」等という労使関係の在り方にも変動が進む。歴史観としては「歪な資本主義」の進行や「物質文明」という潮流と背景が現れ、性教育や人権意識、人間の適正を問い喚起する発想も必要な事と伺える。変動の激しい時代背景と共に人間の変わりづらい良質を問い不変的普遍の人間像や生態像を想起する創造が現れ各施策に対する適正な強弱の評価を遂げる周期が確認される。過去に感覚とはだいぶ異なる環境動向に対面すると共にいつの時代にも変わりづらい良質への見解を掴み、妥当な方法であるのかの判断に及ばせる基準と制御の枠組みが望まれる。身体面の交流が脊せ頭に偏った知的教育や高精度な道具への依存と生存策の基調が強まる近代合理性の傾向について感性和感覚と観念の相関という根源的な観点から適正を問い、変わりづらい長期尺度を求める発想が生み出される。「過敏なのか、鈍感なのか、これらを分ける基準はどのあたりなのか、」基準と過不足を掴みだせる概念や原理を整備する事へと進む。「主体性学」等という領域観が生み出される。基礎基盤性の原理の導出と共に問題の良し悪しの評価に反映し方法の適正に及ぶ一体的完結性のフレームを基に、部分的施策に留まらぬ総合性を図り、確かな部分現象の適正を掴む因果に至る。「人権」等という概念に限定し取り上げると適正が掴み出せない。根源且つ全体性のフレームを導出し部分観点の適正を求める算式が起こされる。このような関心は万人的な課題となり誰にも平易に伝わる概念を作り意味内容の良く伝わる言葉と解釈へ進み稼働に反映される。原初的な主体性や人間像の導出と生態系等という人間と自然と創造を含む体系的な概念を浮かべ根源と特定と全体を掴み適正な施策の判断や導出へ連なる。特定専門性の難しい表現も幾多の経験と思慮の末に構築された概念や方法の形であると思われますが、中学生でも伝わる様に万人的な対象を想定した表現に置き換え、人間の根幹性を抽出する事が望まれる。対象とする課題に相応する表現の示し方が求められる。各所から特定領域観の形成を

通し根源性への見解が作り出される。まっさらな心持による純粋な良し悪しを求める感性と態度が進み質実の良い創造と成果を遂げる様に思われます。私なりの適正像として「生態の根幹的中枢」や「思想原理の適正」や「広狭の哲学文化観」等という表現が産まれます。確かな根源的観点を浮かべ永続思想という万人的集約性の理想的全体性の軌道をもって抽象と具象の整合する各種観点と文脈を導出し活動法則性を反映した創造力が産出される。縁起物制作販売という江戸時代から続く慣習に携わりました経験等から「家内安全と商売繁盛と健康長寿」という祈願とそれを遂げる方法の思索が続き当方なりの人間観や文化観を導出する事に至ります。

2)思想原理の適正

2-1 思想原理の導出

右か左という思想傾向を表す概念にはどこか粗雑性が強い。対象範囲の特定と利益不利益という観点を持って長期と中期、短期の観点と中味を構成する丁寧な表現へ向けられる。単細胞物質化と間の工程の省略性が強まるほどに抽象性に偏り具象性が弱い単純二極性の概念と飛躍的な適用が進む。良い傾向とは映りづらい。現代に適する思想と原理の適正な枠組みを再編し提起する事に及ぶ。

2-2 不変的普遍性と特定性

根源且つ長期性の基準を問い適正観念を確立し各対象範囲へ一貫した原理と応用に回る創造軌道が生み出される。短期や中期、長期という時空を想定しそこでの利益や不利益の観点をもって対象範囲の特定に至る。

静的 動的	根源且つ長期性：性質 人間、自然・地球、永続性
	地域、領域、国家、反復性
中期性：構造	一過性から反復性
短期性：局所性	

ゼロベースからの基準に立ち返り二次三次の概念に適正があるか、抽象と具象の整合する構成に及び活動法則の適正が映る。頭と体と精神の有機的な主体性を遂げる。対立的な利害の意識が強まるほどに対象の単純抽象化と性格付けを図り分断を強め利害の対立と優位性への作為が進む。自己と外界を含む利益概念の導出と自他との共有を進め各個性の特徴を浮かべ同一ベクトルへと向かう個性の尊重と協働の基調が進む。不変的普遍と特定領域という二つの基準を内蔵し健全な社会性や公益性に及ぶ持続的な創造と稼働が産まれる。根源且つ長期性にはある程度同一性をもって不変的普遍の観念を揃え、時々々の内外環境に対面し長期性に及ばせる発想を起こし最良的生の導出を遂げる法則性と体系化される。頭脳的な観念に留まらず身体的活動面を含め主体の精神性や性質面の適正を遂げる創造に向かう。

静的	不変的普遍性 (感性的概念)
動的	
共通性 (頭脳性)	意思形成、執行と検証過程、
個別性 (身体性)	個別政策、政策の全体

立憲主義等と謳い国家への制約を求める態度に対し自己の側にも立憲主義を適用し同一基準と適用を果たす態度が弱いと精神には歪性が起こる。教育者やマスコミ等という領域の傾向と映る。文化の希薄な性質に陥らぬ主体性原理が進む。教職募集の案内に対して「採用か不採用の理由を答えることは出来ません」等という態度が示される。相応の資料を求めるに際しては、それに応じた回答を見せないようであるとエネルギーの不均衡性や立憲主義とは異質の性格が進む。主張と行為の乖離が広がらぬ態度にあって健康な精神性が産まれる。検証性の工程の弱い活動法則性と解される。日本の教育行政にどこか欠陥のような心象が起こる。知育と徳育と体育のバランスの可笑しい原理と適用にないか。哲学文化の側面から質実を問い適正に及ばせる作為が進む。

2. プロフィール

1) 沿革と創造性

幼少の頃より縁起物制作と販売に携わり 2 社の民間会社に約 8 年勤務し、約 10 年間、縁起物制作販売を専従し、その後、文化思想形成に約 8 年専念しました。そして、この度「日本文化原論」と題する著作を纏め広くご案内を申し上げる次第です。縁起物は「家内安全と商売繁盛と健康長寿」という祈願を求め購入する性格が備わります。意図する欲求と充足のギャップからその開きを埋める発想が進み、思想体系を作り実際性へ及ばせるエネルギーが起こりました。自己の無力さの評価を抱き思想形成から有力な創造へ高め祈願に相応する事物へ及ばせる力と至ります。顧客との対面や消費生活における矛盾、社会基盤的な面の問題視、広く歴史の趨勢や潮流等という各観点が出現し原因の分析と問題の特定と適正基準の導出と有効な方法を求め、各種概念が産出されます。文化思想に値するか、多様な解釈が産まれる事と存じます。学術の恩恵も受けながら自己の独特な活動と思索の過程を経て生み出された哲学文化思想と考えます。執筆活動を陰日向からご支援くださいました多くの方々への感謝を申し上げますと共に、一つの個性とご容赦賜りたく存じます。

2)著者履歴紹介(p390)

- ・プロフィールの詳細・職務履歴、詳細、
- ・縁起物と思想形成・各種写真

3)執筆経過と本書の構成

第一部 P1～P67、第二部 P68～p125 第三部 P126～p195、
第四部 p196～p289 第五部 p290～p389

4)当該生産の主題と産出

本書の主題は「文化観」の形成に有ります。生滅という単純 2 極の生命観が強まる事に対し自存と他存の共存を図る「感性と論理」や「精神性と物質性」の相関が導出されます。感性と観念と感覚という 3 つの要素と有機性を常態する活動法則を引き出し動静概念と規則性が作られます。あるべき人間の内包と外側を含む具象性を図り 7 つ程度の変数と循環体系に変換し領域の健全性と確かな永続世界を作る広狭の哲学文化観を産出します。個々人や家族や事業体、地域や国家や国際社会、人間と自然と創造の各領域を作る普遍的不変の原理が提起されます。

4-1 主要概念

永続思想と主体性学

根本且つ全体性：主体と生態の一般法則性、

根本性：生滅不可分と最良の生の導出、動静概念と規則性、

全体性：七色の虹の架け橋、広狭の哲学文化観、

4-2 形成過程

「第四部から第三部と第二部、第一部」という執筆過程を経ました。「永続思想と主体性学」という形になり、本書の最終成果物が産まれます。

4-3 当該分野と他領域の相関性

各専門分野との協業を図り完結的主体や領域の形成を遂げる大枠観の認識と当該領域の特徴や配置と相関を想定し自存と他存の領域を生む。

先行予約受付中

約 8 年弱文化思想論の執筆に従事しました。この間、サイバー犯罪が常態化し各マスコミの放送内容にも反映されている様子が日常化している認識が形成されていた。警察や弁護士に申し出たものの適当な対応はして頂けない。政治とマスコミ、財界等による組織的な犯行のように伝わった。まともな文化を求めるならばこれまでの働きについて相応の対価を払う事が必須であり、この態度が起こらぬ状態では健全な精神性を回復するには至らない。まずは金を払え。それから、まともな対話へ進む。肥満症の常識は分母的な感覚とはだいぶ異質のようだ。健全な手順と文化水準が望まれる。一部の悪性を放置するといつまでも虫けら気質が修復されずその常識が広がる。抜本的な施策が要る。善意的に当方の活動を支えて下さった方々には心より感謝いたします。虫けらの常識を看過することは空間への無責任さと連なる。けじめを付けさせることに公的利益を抱きます。

振込口座

あさか野農業協同組合 野火止支店

普通 0019620

横山 俊一 (ヨコヤマ シュンイチ)



3. 書籍表紙



4. 目次

第一部

伝統文化の継承	2
挨拶	2
1)はじめに	2
2)生態の根幹の中核	3
3)思想原理の適正	5
4)執筆活動の法則性	7
プロフィール	8
1)沿革と創造性	8
2)著者履歴紹介(p390)	8
3)執筆経過と本書の構成	8
4)当該生産の主題と産出	9
一編 主要な観点と創造性	20
一章 心身と観念の相関性	20
1)頭と体と精神性	20
2)不動的本能の良質性	22
二章 生涯学習	23
1)文化政策	23
2)創造の根本原理	26
3)哲学文化の質実	29
4)健全な文化基盤	31
5)生態概念：根源と幹と産出と果実	33
6)主体性と生態系の原理	35
7)生涯学習	36

二編 生産性の大枠	37
一章 全容	37
1)沿革	37
2)変換過程	37
3)産出	37
二章 沿革と変換	37
1)縁起物制作販売と思想形成	37
三章 哲学文化の背景	40
1)哲学文化の良質性	40
2)長期基盤性の原理	43
3)生態の中核性	46
四章 産出：現況認識と未来観の導出と実現	47
1)現代社会の概括的認識と改善の方途	47
五章 産出：思想の執筆と産出	50
1)思想：永続思想 真なる調和への道 七色の虹の架け橋	50
2)現象の一般法則性と世界観の形成	54
3)主体性の一般法則性	56
六章 産出：文化観	59
1)根源且つ全体の適正	59
2)言行の整合と精神性	62
3)現代社会の認識	64
4)変わらぬ良質の形成	65
5)良質の持続性	66

第二部

一編 永続思想と人間学 69

一章 永続思想 69

1) 保守と革新 69

2) 不変の普遍性 69

3) 活動習慣 70

4) 内包性と外側 70

5) 動静概念と規則性 71

6) システム化と人的裁量 71

7) 二極・三極・七極 72

8) 纏め 72

二章 人間学 73

1) 歴史の経過と理論形成と実践 73

2) 理論体系：人間学の体系化 75

二編 永続思想と主体性学 77

一章 文化の形成 77

1) 主要な関心と創造 77

2) 文化形成の道筋 78

3) 文化様式：主体性の基礎原理 80

二章 永続思想 85

1) 文化政策体系 85

三章 主体性学 89

1) 主体性と生態系の一般法則性 89

2) 根源的観点と思慮と基準の導出 91

3) 根源且つ全体性：広狭の哲学文化観 94

三編 人間の活動法則性 98

一章 思想と科学 98

1) 思想と自然科学、精神性・感性と感覚、 98

2) 哲学文化政策 100

3) 社会生活の全容と哲学文化観 104

二章 根源且つ全体 109

1) 創造原理 109

2) 普遍的不変性の探究と提起と適用 110

三章 特定観点 113

1) 安定と不安定 113

2) 立憲主義 114

四章 抽象原理の形成 116

1) 主体性の一般法則性 116

五章 7色の虹の架け橋：永続思想と実践の体系 119

1) 主体性と生態系の原理 119

2) 各種対象範囲 121

3) 根本原理と応用概念 121

4) 持続的活動と周期性 123

5) 7色の虹の架け橋：6つの個性と1つの総合 124

第三部

一編 人間観 127

一章 不変の真理 127

1) 普遍的不変性 127

2) インフラの正常性 129

3) 哲学文化の復興 131

二章 根源的理念 133

1) 普遍的不変と共通と個別 133

2) 人間とは 135

三章 日常的現象と根源的現象の整合 138

1) 特定課題と事業体の管理システム 138

2) 宗教的思索活動 140

3) 日常性と宗教性の整合	141	5) 体系的原理の形成：主体性原理の精査	169
四章 哲学文化の根源且つ初動性	142	四編 大局観と基本文脈	172
1) 大局的動静	142	一章 生産の要点	172
2) 具象的適正原理	144	1) 自己生産性の大筋	172
3) 日本文化原論 永続思想 真なる調和への道	146	2) 主体性原理と適用	172
二編 思想・世界観・文化	148	3) 社会システム観	174
一章 永続思想・主体性学	148	4) 根幹原理と応用	175
1) 抽象文脈の形成	148	二章 特定現象の対面と評価	176
2) 具象文脈の展開	150	1) 社会基盤の健全性	176
二章 思想世界観	151	2) 教育観の適正	177
1) 永続思想	151	3) 消費行動と生活者	180
2) 一級の文化	154	三章 改善案の導出（七色の虹の架け橋）	181
3) 哲学文化観の提起	155	1) 生態の真理	181
三章 文化活動	158	2) 人間と自然と創造	182
1) 主体性と生態系の一般法則の持続的な探求と実現	158	3) 主体と領域の健全性と永続性	184
2) 活動法則性と特定現象	159	4) 精神性と身体性及び観念形成	186
3) 上田県政 16 年の検証	160	5) 広狭の哲学文化観	187
4) 抽象原理	160	四章 改善案の導出（個別観点）	189
5) 抽象原理と特定性の配置	162	1) 言葉や概念及び集約性概念	189
三編 哲学文化政策	163	2) 広狭の哲学文化観	192
一章 根本性の原理	163	3) 主体性原理の要点	194
1) 根本性と総論と各論	163	4) 実践プログラムの構成	194
二章 総論	164		
1) 活動法則性	164		
三章 各論	165		
1) 狭義の哲学文化	165		
2) 根本且つ全体性概念	166		
3) 対策	167		
4) 深耕且つ広域・長期の思索と施策	168		

第四部

一編 哲学文化観 197

一章 哲学文化観 197

1)精神性と物質性と概念形成と表現 197

2)哲学文化観 199

3)創造原理と主体性と生態系原理 201

4)人間や生態の設計開発 203

5)健全な哲学文化基盤の確立 204

6)普遍的不変性 207

二章 文化政策、長期政策の観点 209

1)総論 209

2)各論 210

3)詳述 211

三章 文化政策：文化思索と文化行為 214

1)抽象文脈の導出 214

2)具象的文脈の限定 219

3)具象的政策の体系と整備 220

二編 概念と感覚と感性 223

一章 主要な創造性：最良の生の導出 223

1)主体性原理 223

2)生態の普遍的不変性 226

3)哲学文化思想 228

4)根幹的基軸性 232

5)生態系原理と応用 234

6)根本原理と適正の検証性 237

7)根本原理の探究と提起 237

二章 概念 238

1)言葉・概念・思想 238

2)普遍的不変と特定性、理論と歴史 239

3)哲学文化的欲求 241

4)農業と教育 243

三章 創造力の初動 244

1)哲学文化 244

2)観点の特定と全体性の文脈 245

3)表現や創造の初動的原理と哲学文化政策 246

4)人間性と生態系の一般法則性 247

四章 哲学文化政策 252

1)哲学文化の要諦：生態系の原理 252

2)根本原理と適用 255

3)全体性の構図と自己の配置 256

4)具象的構図：特定性：現況と評価と方法 257

5)纏め 259

三編 生態像 261

一章 生態像の導出と実践 261

1)人間性の問いと探求と実現 261

2)主体性原理 265

3)主体性原理と実践プログラム 267

4)内包性と外側 269

二章 哲学文化観(総論) 270

1)創造力の大筋：七色の虹の架け橋 270

2)哲学文化の契機 271

3)文化文明観 271

三章 哲学文化観(各論) 275

1)真のグローバル 275

2)思想・世界観 278

3)健全な思想体系 280

4)文化政策学の確立 282

- 5)主体性原理の探究と提起 284
- 6)創造性の体系 286
- 7) 7 要素程度の生態系 288

第五部

- 一編 生態系原理 291
 - 一章 思想・世界観 291
 - 1)思想・世界観 291
 - 2)人間像と生態像（観念と感覚と感性の相関性） 293
 - 二章 生態系原理と特定領域の相関 297
 - 1)現象の特定と評価と改善の総論 297
 - 2)適正施策の導出 297
 - 3)狭義の哲学文化の個性 300
 - 三章 七色の虹の架け橋 301
 - 1)最上の価値と実現 301
 - 2)主体性と領域化の一般法則性 303
 - 3)自己沿革 305
 - 4)文化政策の産出と粗方 306
 - 5)文化論と文化プログラム 306
 - 6)創造の全容 306
 - 7)七色の虹の架け橋 307
- 二編 抽象性と具象性 308
 - 一章 哲学文化ビジョン 308
 - 1)根本且つ全体性 308
 - 2)現代社会の課題 309
 - 二章 文化政策 310
 - 1)全般 310
 - 2)根本且つ全体性：生滅不可分と最良の生 314

- 三章 思想世界観(抽象性) 320
 - 1)思想の特徴 320
 - 2)中長期周期性 322
 - 3)哲学文化学 323
 - 4)広狭の哲学文化観と表現の自由 325
 - 5)自存と他存と根本且つ全体 326
 - 6)概念と身体と感性の有機性と検証性 328
- 四章 具象性 329
 - 1)主要業績 3点 329
 - 2)文化プログラム 330
 - 3)書名と中身 335
- 三編 中核概念 337
 - 一章 全体集約性 337
 - 1)人間と生態の理念体系 337
 - 2)各論 339
 - 二章 展開性概念 347
 - 1)要点 347
 - 2)展開性概念詳細 348
 - 三章 普遍的不変のビジョン 354
 - 1)広狭の哲学文化政策 354
 - 2)人間性と生態系 362
 - 3)平和主義 372

著者履歴紹介 390

- 1)プロフィール 390
- 2)職務履歴 392
- 3)職務詳細 393
- 4)縁起物と思想 395
- 5)各種写真 398



美粋書房

bisui.nihon@gmail.com